



36号の主な内容

- ジョアン・クロス事務局長歓迎レセプション
- イベント「あの日のこと」
- 東北ワークショップ報告会
- ハビタット支援コンサート
- ハビタットひろば ■ 職員インタビュー
- 今後のスケジュール

第 **36** 号
<http://cnhf.ngo.jp>

■ ジョアン・クロス国連ハビタット事務局長来福



国連ハビタット本部（ケニア・ナイロビ）からジョアン・クロス事務局長が来日され、2012年5月30日、福岡のホテルニューオータニ博多において、福岡県の主催にて国連ハビタット協力委員会と歓迎レセプションが開催された。

小川福岡県知事、高島福岡市長、野田国連ハビタット福岡本部長、松尾協力委員会会長など多数が出席され、ハビタット福岡市民の会からも10名以上が参加し、和やかな雰囲気のもと盛大な歓迎会となった。



ジョアン・クロス氏は、1949年6月29日生まれのスペイン出身で、1997年～2006年にバルセロナ市長を2期務め、2006年～2008年には、産業観光商務相に任命された。現トルコ・アゼルバイジャン共和国大使で、2010年10月18日に国連ハビタット事務局長（国連事務次長レベル）に就任されました。（牟田慎一郎）



歓迎レセプションのなかで、今後5年間の福岡県、福岡市および国連ハビタット福岡本部協力委員会等による国連ハビタット福岡本部の支援に関する覚書調印式も行われた。



■イベント「あの日のこと」

2011年3月11日に発災した東日本大震災の早期復興を願うイベント“写真が伝えるものがたり「あの日のこと」”が、日本ハビタット協会の主催で5月13日にエルガーホール8階大ホールにて開催されました。ハビタット福岡市民の会のメンバーもボランティアスタッフとして当日の運営に協力しました。



第1部では仙台出身で世界的な戦場カメラマンとして活動されている高橋邦典氏が撮影した被災地の写真をスクリーンに映写しながら、元宝塚歌劇団で現在俳優のこだま愛さんの朗読で、大震災と津波を生き抜いた人々の具体的な体験が語られ、その中で感じたこと、考えたこと、明日に向かって前向きに生きることの大切さが伝えられました。チェロとフルートの演奏とともに語られる朗読が、今もまだ大変な暮らしを続けていらっしゃる人々の想いを代弁しており、とても心に残りました。

第2部は国連ハビタット親善大使のマリクリスティーヌ氏がファシリテーターを務めながら前福岡県知事の麻生渡氏とハビタットフレンズで被災された永井史恵さんの3人でトークが行なわれました。



被災者の方の地震直後のお話と、その後、日本ハビタット協会と連携をとりながら、物資の運搬などの活動に奔走されたお話を伺いました。被災された方々の一日も早い復興を願うとともに、被災者の方の想いに少しでも寄り添っていけるよう、さらなる支援活動を行ってきたいと思いました。(諸藤恵子)

■東北ワークショップ報告会

5月8日に東北ワークショップ報告会に参加しました。東北ワークショップは、復興のノウハウをコミュニティに伝え、東北復興モデルを世界に伝えることを目的としています。ハビタットはアジアで80のプロジェクトを実施してきたが、日本でのプロジェクトは今回が初めてだそうです。

今回の地震の被害を直線距離で阪神大震災と比較すると10倍以上の距離になるそうです(阪神大震災:35km 東日本大震災:350km)。そしてこのように経済活動が分散していることが復興する上で手詰まっている最大の原因だそうです。どこから手をつければいいのか分からないという状況になっています。説明の中で、改めて実感したのは以下の時間の流れについてです。

- 72時間：徹底した救助活動
- 1週間：配給ルートの確立
- 1か月：緊急状態の緩和
- 3か月：マスコミ撤退

全てがこれに当てはまるというわけではないですが、どの災害についてもこのような傾向が見られるそうです。そして、ワークショップを行う中で以下の課題が見えてきたそうです。

- ・住民の意見と政府の復興プランとのギャップ。
- ・交付金：住民の意向を十分にくみ取った形で使用することの難しさ。

今回参加して感じたのは、住民の意見を取り入れることの重要さとそれを行うことの難しさです。もちろん、すべてを取り入れることはできないですが、その中でどれだけ組み込めるかのすり合わせが大事です。また、安全面を最優先する必要があるため、そのためには多少の妥協も必要なのだと感じました。

また話は変わりますが、5月10日～15日までの6日間で岩手県陸前高田市に行ってきました。昨年からはボランティア活動をやらせていただいています。今回はひまわりの種を蒔いてきました。その中で感じたことを書きたいと思います。

去年は9月末に行きましたが、その時と今年5月に行った時とで瓦礫については大きな違いはないように感じました。瓦礫自体はまだあるのですが、ほとんど1か所にまとまっている状態です。そのことから、瓦礫撤去等を行う身体を使ったボランティアが必要な段階は終わり、次の段階に移行しているような気がしました。次の段階とは、復旧・復興プランを考えるため頭を使う段階です。これがとても重要で難しいです。50年後・100年後・200年後も災害に強い街を造らないといけません。またデザインも大事です。

陸前高田市に限らず津波の被害を受けた街がどのような街をデザインするのかずっと追ってみたいです。(早川芳樹)

■ハビタット支援コンサート

今年で24回目を数えるニューヨーク・シンフォニック・アンサンブル日本ツアー2012公演が、7月18日(水)にアクロス福岡のシンフォニーホールで行われました。

この公演は、アジア太平洋こども会議・イン福岡と国連ハビタット福岡本部を支援するコンサートとして福岡で毎年パナソニックが主催して行われています。

去年の日本公演は、東日本大震災の復興に元気と癒しを与えてくれました。今年も例年と同じように、素晴らしい才能溢れる演奏家達による選び抜かれた名曲を演奏する全9回の日本ツアーとなっています。毎年、感動を与えてくれています。

印象に残った演奏としては、モーツァルトの「フルートとハーブ

のための協奏曲ハ長調K.299」で、特にハーブは日本人の村上奈菜子さんが弾き、優雅で繊細なハーモニー



が、聴く者の心を癒してくれました。

アンコール曲を3曲して頂きましたが、特に最後の曲、エルガー作曲の「威風堂々」は、堂々とした勇気を与えるような曲で素晴しかったです。(佐竹芳郎)

■ハビタットひろば

国連ハビタット福岡本部が(財)福岡県国際交流センターと合同でアクロス福岡 3F のこくさいひろばで偶数月の1日に開催している合同レクチャーシリーズ「ハビタットひろば」の報告です。

■第8回 6月1日(金) 18:30~19:30

「九州の水車技術をラオスに伝える」

基調となる説明をしてくださった国連ハビタット福岡本部本部長補佐官の星野幸代さんは都市政策がご専門で、自力だけでは海外への進出が難しい地元企業の環境技術と都市の発展のためのノウハウをもたないアジア太平洋地域とを結びつける事業を担当していらっしゃいます。今回はご担当の1つであった「ラオスにおける水車技術事業」について、九州を中心に水車技術の専門家として現地に同行した野瀬秀拓さんとともに、和やかな雰囲気の中講演いただきました。

プロジェクトが実施されたのはラオスの北部ルアンプラバン州にあるベト村。この地域ではメコン河の恵みを受けながらも雨季と乾季の水位の差が激しく、恒久的な橋の建設も難しいため安定した農業用水の確保が課題となっていたところ、国連ハビタットが開催している国際環境技術専門家会議をきっかけとして、野瀬さんのご専門である電力を必要としない用水水車の技術をラオスに移転する本事業が実現しました。

レクチャーでとくに印象的だったのは、職人肌でいらっしゃる野瀬さんが現地の大工さんに技術を引き継ぐ過程です。川の音や流れなど「川の表情をみる」野瀬さんは水車の設計図もとくに作成されないため、技術移転で重要な、多くの人に等しく同じ情報を正確に伝える方法も野瀬さんに一任されました。現地のやり方を尊重し、道具なども現地で調達しながら共同作業を行っていきながら言葉以上のコミュニケーションである職人どうしの以心伝心によって、水車を完成させたとのこと。「指導ではなく、自分の技術を伝えるために自分と向き合う作業」であり、現地の大工さんの技術・工夫によって「逆にあらためて気付き引き出してもらった」という野瀬さんの技術が、安定した農業用水をもたらし、過酷な水汲みの労働から女性や子どもたちを解放しました。

講演後の質疑応答でも会場と丁寧やりとりがなされ、現地の人々が持続的に自立していくための事業を展開する国連ハビタットの活動をよく理解できるレクチャーでした。(井上良子)

■第9回 8月1日(水) 14:00~16:00

「あなたの力で変える、まちの未来」

～東北復興から見る、これからのまちづくり～

本来は、先進国にハビタットが行くことはありませんが、今回は日本政府からの依頼を受け、ハビタットから例外的に先進国である日本の東北 11 自治体での活動についての報告会とワークショップでした。

現地では、問題が未だに山積みになっており、自治体と住民との関係が良好ではないところが多くあり、復興が足踏み状態になっているとのことでした。特に、一番の問題は、「人材不足」であり、誰が主体となって復興を推進するのか、復興するためのアイデアは、誰が考えるかなど、ワークショップ形式で、討論をしました。結果は、地元住民の先人の知恵を重視し、アイデアは、インターネットなどを駆使し、世界中から募集するといった意見がでました。そして、強い意志を持ったリーダー

が必要であり、また、そのリーダーをサポートする人の重要性も必要であるという見解にいたりました。



まとめとし

て、ハビタット福岡本部の星野氏から、すべての人に対してコーディネーターをできる人材(一つの分野の専門家であるにもかかわらず、幅広い視野で物事を考えることができ、リーダーシップのある人物)が必要であるという結論でした。

今回は、日本のことということもあり、いつも以上に多くのことを考えさせられました。人間は、一人では生きていくことができないと思います。しかし、協力して生きていかないといけないにも関わらず、実際には、意見の衝突や自分勝手な行動、言動があることに現実を突きつけられ、悲しみを感しました。しかし、この現実から逃げてはいけないと強く感じます。人間は、追い詰められた時に、どのような行動をとるかが、本当の人間力であると考えます。一人でも多くの方が、逃げずに現実を受け止め、ポジティブな思考で最善のアイデアを考え、行動をすることが最も重要であると思います。私自身も、そのような人間になることができるように強く生きていきたいと感じました。(古賀慎一郎)

■職員インタビュー

7月30日(月)国連ハビタット福岡本部を訪れ、まもなく定年を迎え退任される予定のラリス・ランカティケレさんにお話をお聞きしました。

1. 国連ハビタットとの関わりについて

1976年に国連ハビタット設立の計画があがり、私はその初期計画から関わりました。途中5年間スリランカ政府で働いたため、国連ハビタットには32年間勤務しました。初期メンバーで残っているのは私だけとなりました。

はじめはボツワナに滞在し、南アフリカ共和国のプロ



ジェクトに関わりました。現在はアフガニスタンやパキスタン、バングラデシュなど8つのプロジェクトに関わっています。国連ハビタットは、一つのプロジェクトで100万人以上の暮らしが改善するといった成果がみられます。このような仕事ができる国連ハビタットに、設立当初から関わることができ幸せだと感じています。

2. 印象に残った出来事は何ですか

スーダンの空港で、周りはすべて軍人で、外国人は自分だけだった時は驚きました。多くの貴重な経験をしたので、今、自叙伝を書いています。

3. 退職後趣味を楽しむ方が多いですが、どのように過ごしますか

Development work is my hobby.退職後は、国連ハピタットの外から働きかけをしていきたいと思えます。

4. 福岡について

福岡に7年滞在しました。9月にスリランカに戻りますが、いつでも福岡市民と交流できるように、期間を設けて福岡にも住む予定です。また2年後(2014年)の国連ハピタット世界都市フォーラム(2012年はイタリア・ナポリで開催)を、もし福岡で開催できたら、福岡はGreen city & Good cityであることをアピールできる良い機会となります。その時は、ハピタット福岡市民の会メンバーの一人として関わりたいと思えます。

ラリス氏が国連ハピタット設立から関わっておられたこと、これからも働きかけをしていくと聞き、その専門性と情熱に敬意を表します。



また、長年ハピタット福岡市民の会もサポートして頂きありがとうございました。今後もハピタット福岡市民の会のメンバーとして一緒に活動できることを楽しみにしております。

(古賀暁子)

事務局長の諸藤恵子さんご結婚おめでとう!

7月8日、ハピタット福岡市民の会の事務局長の諸藤恵子さんが、めでたくご結婚されました。新郎は、津留崎直城さんで、新居は久留米ですので、引き続き事務局長の大役は続けていただける予定です。幸せなご結婚生活をお祈りすると共に、二世のご誕生を心待ちにしたいと思えます。



■今後のスケジュール

【2012年】

9月20日(木) 19:00~21:00 定例会

10月14日(日) 11:00~16:30

ハートフルフェスタ福岡

場所:福岡市役所 西側ふれあい広場

市民一人ひとりが人権問題を自分自身の問題としてとらえ、日常的な人権感覚が身につけられるよう、また地域や関係機関・団体の交流・連携を図り相互理解を深めることを目的とした「ハートフルフェスタ福岡」が今年も開催されます。

当会もブース出展を行い国連ハピタット福岡本部の活動を紹介します。

当日はボクシング元世界チャンピオン内藤大助さんのトークライブや精華女子高校 OB による吹奏、こども太鼓、ダンス、各ブースでの交流などみんなで楽しめるイベントもありぜひご来場下さい。

10月18日(木) 19:00~21:00 定例会

11月10日(土)~11日(日) 11:00~17:00

地球市民どんたく

アクロス福岡 2階 「交流ギャラリー」「セミナー室」福岡都市圏の国際協力・国際交流に関わる NGO/NPO 等の団体が一堂に会し、市民の国際協力・交流への関心・理解を深めることを目的とした「地球市民どんたく」が開催され、今年で14回目を迎えます。ワークショップやブースの展示などイベントがもりだくさんですので、ぜひご来場ください。

11月15日(木) 19:00~21:00 定例会

12月8日(木) 19:00~21:00 定例会

ニュースレター37号発行

12月15日(木) 国連ハピタット福岡本部との交流会

【2013年】

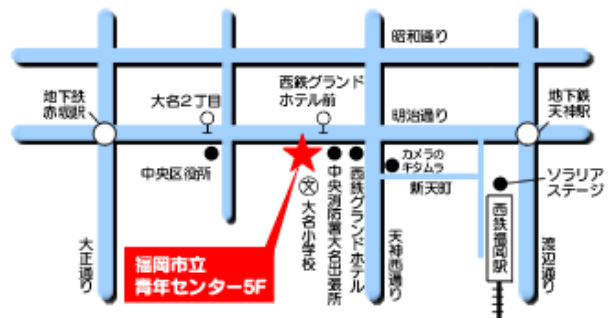
1月17日(木) 19:00~21:00 定例会

2月21日(木) 19:00~21:00 総会・懇親会

☆上記日程は、変更になることもあります。

直前に、ホームページでご確認ください。

定例会の会場は、原則として福岡市 NPO ボランティア交流センター「あすみん」(下図)で行います。定例会後、希望者による食事会も行っています。参加お待ちしております。



編集後記

今年の夏は、オリンピックと局地的な豪雨災害が話題となりました。オリンピックは過去最多の38個のメダルを獲得し、とくに女性の活躍が目立ちました。男性ももっとガンバレ!といたくなります。また、豪雨が各地を襲い大きな被害をもたらしています。地震を含めこういった自然災害が最近目立つように思います。どうも地球温暖化が影響しているのではと思わざるを得ません。安全で平和な世界を目指しましょう!



事務局・お問い合わせは

郵便物のあて先は:

〒810-0041 福岡市中央区大名2-6-46

福岡市 NPO ボランティア交流センターあすみん連絡ボックス2号

お問い合わせは:

TEL 090-6770-2481(牟田)

FAX 0942-41-2080

E-mail muta@ktarn.or.jp

HomePage <http://cnhf.nngo.jp>

